

2018年(平成30年)11月才ホーツク管内倒産集計

平成30年12月6日

株式会社 東亜リサーチ

北見市常盤町3丁目16番42号

Tel (0157) 23-6288

Fax (0157) 24-1033

最少発生で低水準維持 累計発生件数は過去2番目の低水準

発生件数1件、負債総額1,000万円

■前月比件数	1件増加(平成30年10月	0件)
負債総額	1,000万円増加("	0円)
<hr/>		
■前年同月比件数	2件減少(平成29年11月	3件)
負債総額	3億8,700万円減少("	3億9,700万円)

平成30年11月の発生状況

平成30年11月の才ホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は、発生件数が1件、負債総額で1,000万円だった。

これは発生がゼロだった前月と比較すると全増。前年同月比では件数で2件、負債総額で3億8,700万円のそれぞれ減少となった。9月以来の発生となったものの、最少発生で低水準を維持した。

当月の1件はトータルリペア工房みんと(北見市・個人経営・車輜修繕)で、受注不振から、釧路地裁北見支部から破産開始決定を受けたもの。

過去5年間の11月の発生推移を見てみると25年1件、26年1件、27年ゼロ、28年1件、29年3件となっており、平均件数は1.2件、同負債総額は1億1,480万円。29年を除いて発生ゼロか最少件数で推移してきたが、今年も最少発生に止まり、件数は平均値内に止まったほか、小規模な倒産であったことから、負債総額は平均を大幅に下回った。

過去5年間と今年1～11月の発生推移

今年1～11月の発生累計は件数が13件、負債総額で21億4,100万円。前年同期間と比べると負債総額では小規模倒産が中心だった昨年に比べ、今年は4億円台と9億円台の比較的大型の倒産発生もあって総額を押し上げ2倍近い負債額となっているが、件数では7件の減少。過去5年間の発生推移は【下・表】の通りで、平均件数は15.6件、同負債総額で26億2,856万円。今年は負債額では過去3番目だが、件数では27年に次いで2番目の低水準となる。

地区別発生では北見市7件、網走市3件、紋別市2件、清里町1件。業種別では卸・小売4件、製造3件、サービス2件、車輛が2件、建設と飲食・ホテル各1件。主要因別では販売不振が12件、代表死亡1件。表面化別では法的処置9件、弁護士一任3件、2回目不渡りが1件となっている。

過去5年間と今年1～11月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
25年	18件	40億9,480万円
26年	15件	32億3,200万円
27年	9件	20億4,000万円
28年	16件	26億8,900万円
29年	20件	10億8,700万円
30年	13件	21億4,100万円

1～11月主要因別倒産件数

主要因	29年件数	30年件数
販売不振	15	12
回収難	0	0
過当競争	1	0
連鎖	1	0
計画失敗	0	0
放漫経営	0	0
旧債重荷	0	0
代表死亡	2	1
その他	1	0

30年月別倒産件数・負債額

年月別	件数	負 債 額
1月	0件	0円
2月	0件	0円
3月	5件	5億6,600万円
4月	1件	2,000万円
5月	2件	4億6,800万円
6月	2件	9,000万円
7月	0件	0円
8月	1件	8,100万円
9月	1件	9億600万円
10月	0件	0円
11月	1件	1,000万円
12月		
合 計	13	21億4,100万円
29年合計	20	10億8,700万円
前年対比	▲7	10億5,400万円

1～11月地区別倒産件数

地区	29年件数	30年件数
北見市	11	7
網走市	2	3
紋別市	3	2
常呂郡	0	0
網走郡	1	0
斜里郡	2	1
紋別郡	1	0

1～11月業種別倒産件数

業種	29年件数	30年件数
農・林・漁業	1	0
建設	3	1
製造	2	3
卸、小売	3	4
サービス	1	2
飲食・ホテル	6	1
車輛	1	2
運輸	2	0
燃料	0	0
その他	1	0

1～11月企業形態別倒産件数

企業形態	29年件数	30年件数
株式会社	8	5
有限会社	4	4
特殊法人	0	0
個人	8	4

1～11月倒産表面化別件数

企業形態	29年件数	30年件数
法的処置	18	9
2回目不渡り	1	1
弁護士一任	1	3

今後の見通しと問題点

9月6日の観測史上最大となる胆振東部地震、初めてのブラックアウトから3か月が経過。管内では風評被害による宿泊予約のキャンセルが相次ぎ、観光への影響が心配されたが、北海道ふっこう割の効果などもあって国内客を中心に集客は持ち直しているのは明るい材料。

資金需要が高まる年末に向け、今後の動向が懸念されるものの、今年の倒産状況を見ると負債総額は2倍に膨れているが、これまでの累計発生件数は前年比35%の減少。過去5年間では27年の9件に次いで少ないなど倒産は抑制されており、当面この流れに変化はないとみられる。しかし、個々の企業を見ると原材料や燃料価格の高止まりによる収益の圧迫、人手不足により需要に対応できないといった話が多く聞かれており、今後こうした状況が及ぼす影響に注視する必要がある。